

こんにちは、ハリー です。

ビル・ゲイツという人が、パソコンの世界を変えたように、
ハリー・マコーウィッツという人は資産運用の考え方を一変させました。

彼はもともと研究の対象として「投資」を選んだ人で、
自身は投資にはあまり関心がなかったようです。
(そんな人だからこそ【投資を科学】できたのでしょう・・・)

さて、マコーウィッツの第一の功績は、リスクを計量し「数値化」したことにあります。
(例えば) ある一定期間に、株式Aがどれくらい儲かったのか、損したのかは
「結果リターン」として数値化できます。

しかし、株式Aが「どれくらいリスクなのか」をどのように測ればよいのか？
(この難問に) マコーウィッツは「標準偏差」という考え方をを用いて答えました。

つまり、株式Aのリターンの不確かさ・・・、
リターンがぶれる「大きさ」そのものを「リスクの大きさ」として規定したのです。
たとえば、昨年3%のリターンであった株式Aが、
今年28%の驚異的なリターンを残したとしても、
これを「リスクが大きい」と認識します。
リスクとは、リターンがぶれる【大きさ】のことなのです・・・。

さて、リスクとリターンが「計量化」できれば、
リターンの効率性を測ることができます。例えば、

| | リターン | リスク |
|-----|------|-----|
| 株式A | 10 | 20 |
| 株式B | 10 | 30 |

だとしたら、あなたはどちらを選びますか？

(当然 Aですね) 同じリターンなら、リスクが小さい方がいいですよ。
(同じリスクなら、リターンが大きい方を選びます)
ただ単に、リターンの大きい資産を選ぶのではなく、
マコーウィッツは「リターンの効率性」に着目したのです。
(これはとても斬新な視点でした)

(また) マコーウィッツの第二の功績は、
(値動きが異なる) 資産を組み合わせることで、
ポートフォリオそのものの【リスクの大きさ】が、
「リスクの加重平均」より小さくなることを数学的に証明したことです。
(したがって、分散投資を行うことに「メリット」があるのです!)

たしかに、株式Aと相性がよい株式Bを組み合わせることは重要ですが、
もっと「大きな地図」を頭の中に置いていただきたいのです。
たとえば、株式市場Aと相性がよい株式市場Cを組み合わせる、という発想です。

あるいは先進国の株式市場と、
新興国の株式市場を組み合わせる、という視点。
資産の分散という点でいいますと、先進国の株式市場と、
先進国の債券市場を組み合わせるということもできますね。

(実は) ポイントは 単位 なのです。
たとえるなら、30センチの物差しを持つのか、
5000キロメートルの物差しを持つのかの「違い」です。

個別銘柄の組み合わせではなく、
異なった市場間の組み合わせが出来るところが、
ファンド(投資信託)の素晴らしいところなのです。